

# 雨風に耐えて鍛えて幸せの花を育てん 「主体的・対話的で深い学び」を通して



## 令和元年度額田中学校第1回生徒総会

6月28日(金)

### 額中第2期黄金時代を築こうとする額中生の主体性に感動



CRSのポーズを考える  
前期生徒会役員

令和元年度生徒会テーマ「**我ら 額田のチャレンジャー**」で額中第2期黄金時代を築きましようと呼びかける生徒会役員。生徒会役員は、額中の自慢を増やそうとやる気満々です。



6月28日(金)の6時間目、令和元年度額田中学校第1回生徒総会が、立派に行われました。最初に、生徒会からの提案、続いて自治、保健、体育、給食、図書、美化、厚生、緑化、環境委員会の9の委員会から前期委員会活動計画案が提案されました。それぞれの提案に対して質疑応答が積極的にされました。生徒が額中の自慢をつくろうとする主体性に感動しました。これなら、額中第2期黄金期を築けるという期待感が高まってきました。

## 家庭科の浴衣教室で礼儀正しい1年生

6月24日(月)



### 浴衣教室の講師の皆様

- M 様 (宗和)
- K 様 (宗朋)
- A 様
- A 様
- A 様 (宗順)



6月24日(月)、1年生の家庭科の授業で、浴衣教室を行いました。5名の講師を迎えて、着物の説明、着付け、抹茶作法、着物のたたみ方などを学びました。実際に浴衣を着て、お辞儀の仕方を体験しました。「真(45度曲げて手のひら全体をつける)行(30度曲げて指全体をつける)草(15度曲げて指先をつける)」の3つのお辞儀を学びました。そして、抹茶の飲み方を丁寧に教えていただきました。1年生は、心を落ち着かせて作法を学んでいたため、別人になったようでたいへん立派に見えました。講師の皆様から、「とても素直で、礼儀正しい生徒ばかりです。吸収力があり、上達が早いです」と褒めていただきました。

## 額田中学校の研究について

研究主題:「自ら学び続け、未来を切り拓くことができる生徒の育成」

研究期間:平成30年度～令和2年度



13:30～15:30 玉置研究室でご指導



研究主任のN先生から研究概要説明、出席した先生から質問、その質問に対して真摯に答えてくださる玉置崇教授

額田町立額田中学校が、平成15・16・17年度の3年間、西三河教育事務所の研究委嘱を受け、平成17年11月18日に研究発表会を実施しました。その時、玉置崇先生(当時、小牧市立光ヶ丘中学校長)は、数学科の助言者を務めてくださいました。研究発表の翌年の平成18年1月1日より岡崎市立額田中学校に変更されました。そのため、私にとって忘れることのできない、額田町時代の思い出の一つになっています。それ以降、玉置先生のご指導を何度も受けました。私が形埜小学校に赴任している時にも、玉置先生には算数科研究協議会でお世話になり、「落語教室」も披露してくださいました。

岡崎市立額田中学校が、岡崎市教育委員会より平成30年度から令和2年度の3年間の研究委嘱を受け、研究主題は、「自ら学び続け、未来を切り拓くことができる生徒の育成—CRSで「学びに向かう力」を引き出す授業づくり—」です。平成30年度4月より毎週月曜日、研究企画会を行い、額田中学校の研究の方針、方向性について話し合ってきました。本校の研究をより理論的なものにするために、昨年度に続き、玉置先生のご指導を受けることを考えました。6月26日(水)に、研究主任のN先生、教務主任のK先生、研究副主任のF先生、研究副主任のS先生、教頭のH先生、校長の6名が、岐阜聖徳学園大学教授の玉置崇先生の研究室に行きました。以下、昨年度と本年度の2回の大学訪問で、玉置先生から学んだことです。

### 平成30年6月25日(月)12:30～14:30、玉置教授から学んだことの抜粋

- ・「**主体的な学び**」とは、「**指示されてやる学習ではない**」。教師の指導的場面を減らすことを意識してください。「次に何をやったらよいか」と、選択する場面をつくることで、指示されてやる学習が減ってくると思います。生徒の自己選択の場を意図的に設定することで、「主体的な学び」に近づいていきます。
- ・「**対話的な学び**」とは、「**自分一人で完結する学習ではない**」。例えば、グループ学習で、「わからないから教えて」と自分からわかるようになりたいという気持ちを素直に表せる人間関係ができていれば、対話的な学びに近づいていくと考えます。上から目線で、「教えてあげる」という人間関係では、本当の対話が成立しないと思います。
- ・「**深い学び**」とは、「**見方や考え方を道具として使う学習**」。新学習指導要領の目玉は、すべての教科に「～見方・考え方を通して、～の資質・能力を育成する」とあります。単元における「見方・考え方」を明確にし、これを学ぶにはどうしたらよいかを研究することが必要です。

### 令和元年6月26日(水)、13:30～15:30、玉置教授から学んだことの抜粋

- ・研究理論は、よく考えられています。理論と実践をつなぐ教師の手立てを明確に、具体的に考えていくとよいと思います。私も、具体的なことを7月4日(木)の授業研究会までに考えていきます。
- ・セルフチェックカードで、グラフ的に自分の学びを捉えることは素晴らしい。毎時間のセルフチェックカードだけでなく、**単元全体を終えてのセルフチェック**もあるとよいと思います。本当の意味で、自分のために、自分自身の学びに向かう力を振り返ることに価値があると考えます。常に教師に見てもらうために振り返りをするようでは、主体的な学びにつながらないと思います。あくまでも、**自分のために自分を振り返る力**を育てていきたいと考えます。毎日の生活日記も1年前、2年前の自分と比べて振り返ることも大切です。**書くことによって深く考える力が育成されていきます**。
- ・「**学びの共同体**」を推奨されている佐藤学先生が、「4人グループでリハーサル」という考えで、グループ学習を位置づけるとよいと言われています。グループ内での話し合いをCatch(捉えて)、Response(反応)、String(つなぐ)という教師の出す工夫を積み重ねていき、グループ学習と全体学習をつなぎ、個を伸ばす支援を研究していくとよいと思います。
- ・**生徒が真剣に考えている時は、沈黙しているはず**です。グループでの話し合いを止めるのではなく、教師がその話し合いを価値づけることが大切です。**素晴らしいグループ学習に対して再現させて、全体に広げていく方法**もよいと思います。
- ・**グループ学習に必然性、価値がなければいけません**。グループ学習ありきでは、価値あるグループ学習にはなりません。話し合う必要性のある課題を吟味することが大切です。
- ・**生徒が学ぶ楽しさを味わえるようにしたい**。グループ内の生徒の動きの記録をとり、教師がその学びをCatchして価値づけていくことが重要です。
- ・もし4人のクラスだったら、教師のCRSはどうするのかを考えると、グループ学習で深い学びにする手立てが見えてくると思います。
- ・**教師が楽しく、生徒も楽しく、主体的・対話的で深い学びのある授業をつくり、研究発表会では、生徒の学びで勝負するもの**にしましょう。どうせやるならウキウキ、ワクワクする研究にしましょう。
- ・地道な実践を積み重ねて、その実践を紹介していくとよいと思います。うまくいった実践だけでなく、ややつまづいた実践でも、なぜうまくいかなかったのかを分析し、どう工夫したらうまくいったかを紹介することも価値ある実践だと思えます。